

- 総務省では、2020年度からのプログラミング教育の必修化を通じて、ICTへの興味・関心を高めた児童生徒が、継続的・発展的に学ぶことができるように、企業や地域住民による学習機会の手法を確立し、先端ICT人材の育成を促進するべく、「地域ICTクラブ」の構築に取り組んでいる。
- 本部会においては、この地域ICTクラブが、新たな地域コミュニティの創出にも資するものであることから、
 - ・ 多様なモデル（多世代型、障害者支援型等）の構築
→「メンター」の育成、他地域派遣、学校等との連携（人材、教材・ノウハウの共有）、児童館、公民館等との連携を含む。
 - ・ クラブの全国展開のあり方、普及展開手法
について、「ガイドライン案」として取りまとめることとしている。

「ガイドラインの骨格」

0 地域ICTクラブの目的・役割

1 地域ICTクラブの立上げ

●立上げに必要な要素（ヒト、モノ、場所等）

主催者：ICTクラブを企画し関係者間の調整を行う者
周知：自治体（教育委員会、学校）、新聞社等
場所の提供者：学校、公民館、児童館、郵便局 等
教材、メンター育成：プログラミング関係事業者 等
メンター母体：地元企業、大学・専門学校等、自治会等
のコミュニティ、高齢者向けPCクラブ 等
その他：モデル毎に必要な知見とつながりを持つ者

●円滑な立上げのポイント

- ・各地域でキーとなる人物・組織を巻き込むことが必要。
- ・関係する組織毎に、それぞれのメリットを示すことは有効。

2 メンターの確保・育成

●メンターに求められる素質・経験等

・児童生徒等とのコミュニケーションが重要。技術面で詳しい人が最低1名いると良い。

●メンターの確保、育成のポイント

・募集時は、役割・求めるレベル・研修によって補える知識を明確にし、「できそう」というイメージを作ることが必要。
・育成時は、コミュニケーションスキルを重視。未経験者へは技術的知識について付加的に実施。

3 講座の設計～運営

●学びの効果を高める講座設計や教材開発・確保のポイント

・地域ICTクラブ毎に、目指す姿を明確にしてから教材等を設定する。
ex.初心者（プログラミングに親しむレベル）、課題解決、大会等への出品等。

●学びの効果を高める講座運営のポイント

・プログラミングコンテスト等への出場等講座の目標・インセンティブを設定し、取組・継続意欲を高めることが効果的。
・自立的・自発的に考えさせることが重要。
・児童生徒等同士の教え合い・学び合いが効果的。

4 地域ICTクラブの継続可能な運営のあり方

●自立的な活動の継続を実現する運営体制等

・多様な団体からなる協議会を立ち上げるとともに、運営主体（組織）を明確化する。
・資金・設備の確保手法。

5 地域ICTクラブのタイプ別留意事項

立上げ・運営のポイント

（参考）事例集